令和２年度　学　校　評　価　【　報　告　書　】

加賀市立 片山津中 学校　校長　山下　悟　印

教育目標「温かな人間関係の中で、生き生きと自主的に活動する生徒の育成」

めざす生徒像
（１）積極的に学び、正しい判断で行動ができる生徒
（２）思いやりがあり、他と優しいかかわりができる生徒
（３）自主的自発的に物事をやり遂げようとする生徒
（４）将来への希望を持ち、その実現のために向上心をもって努力できる生徒

めざす学校像
（１）温かな人間関係を構築できる学校
（２）子どもが主役となり生き生きと活動できる学校

めざす教師像
（１）めざす生徒像の一歩前を歩き導く教師
（２）生徒と信頼関係を保ちながら導く教師
（３）生徒の無限の力・能力を引き出しながら導く教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。	各教科担当が宿題の点検を丁寧に行い、1時間程度かかる学年にあった学習課題を継続して用意する。家庭学習の習慣化を目指し、各種たより、懇談会などの場を通して、家庭における過ごし方（時間の使い方）を含め、保護者の協力を求める。	教務主任 各教科	学習習慣が身についている生徒と身についていない生徒の二極化傾向にある。全体でも家庭学習の時間が少ない。	（成果指標） 家庭での学習が習慣化した生徒が増えた。	家庭での学習時間が1時間以上の生徒が、1・2学期平均で A　80%以上になった B　70%以上になった C　60%以上になった D　60%未満であった	学習・生活アンケート(22)の1・2学期平均がDの場合は、課題の内容を再検討する。 生徒調査（1・2学期末）	C （60.5%）	B （71.3%）	最終の判定結果が中間評価から10%以上もアップし、各学年の課題の提出率も上がっている。これは各学年で家庭学習の強化に力を入れて、課題の精選と粘り強い声かけの効果が出てきたものだと思われる。今後は現在の取り組みを継続していくとともに、学年別の学習時間も集計し分析していくことで、学習の質の更なる向上を目指していく。
		生徒の実態を把握し、学び合いに加え振り返り活動を大切にした学習形態に変える等の工夫をして、各教科の目標や指導の重点を確認し、それに向けて努力する。また、授業のﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ化および授業規律の徹底と定着を継続する。	教務主任 研究主任	生徒の実態に応じた指導法を工夫し、片中スタンダードを徹底してきているが、振り返り学習を意識して取り組む必要がある。	（成果指標） 授業が分かりやすく、学習意欲が向上した。	保護者アンケート⑧「お子さんは授業がわかりやすいと言っている」が1・2学期平均で A：80%以上になった B：70%以上になった C：60%以上になった D：60%未満であった	保護者アンケート⑧の1・2学期平均がDの場合は、指導法の再検討をする。学習・生活アンケート(17)の「授業がわかりやすい」も参考にする。 生徒調査・保護者調査（1・2学期末）	B （74.7%）	C （66.4%）	授業の可視化を図り、生徒にとって分かりやすい授業を目指した結果、概ね落ち着いて、かつ意欲的に学習に取り組んでいた。しかし、割合は十分とは言えない。保護者アンケートの結果と、生徒の学習・生活状況アンケート(17)の結果（89.7%）に開きがあることについては、教科・単元によって理解に差が生まれてきているからではないかと考えられる。生徒の学力・実態を把握し、わかる授業についてこれからも試行錯誤を重ねていきたい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	情報の共有から行動実践へとつながる生徒指導体制を確立する。	「生徒指導委員会・各学年会」や「いじめ問題対策ﾁｰﾑ」から情報を共有し、行動実践をｽﾑｰｽﾞに行うための報・連・相を確認する。また指導体制を確立するために事例検討会(いじめ対応ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ)や校内研修等を行い、日々の体制の確認をする。	生徒指導主事 学年	情報の共有から行動実践へとスムーズにつながることができるようになってきている。	（成果指標） 情報の共有がなされていたか。 情報の共有から行動実践につながったか。	21「いじめや暴力行為などの問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」の項目の1・2学期のabの合計平均が A：90%以上の場合 B：80%以上の場合 C：70%以上の場合 D：70%未満	教職員アンケート21の1・2学期のabの合計平均が80%未満のとき、方法・内容について再検討する。 教職員調査（1・2学期末）	A （100%）	A （100%）	今年から設定した(遅くからの家庭訪問の分類)レベル1～3について校長・教頭・生徒指導・学年主任・担任が指導・方針をきちんと確認し、その後の対応にあたる。また、問題行動記録シートを対応者が記入し、その後の見取りの確認、生徒の動向を見守るようにつとめる。なお、いじめ等、生徒の声かけや言葉のメモもきちんと保管していくこと教職員全体で確認し合うことに継続して取り組んでいきたい。
③キャリア教育・進路指導	系統的な指導と、自分の将来を考えた進路選択をする能力・態度を育成する。	全校に向けた進路だよりを計画的に発行し，様々な情報を適切な時期に伝えていく。また、道徳、特活、総合的な学習の時間を中心に全教育活動を通してキャリア教育を行うための全体計画を作成し，3年間を見通した指導を推進していく。	進路指導主事	1年生での「地域の人からお話を聞く会」と職業調べ、2年生での職場体験活動、3年生での体験入学や進路学習会を中心に進路指導を行っている。	（成果指標） 職場体験や体験入学を通して自分の将来について考える生徒が増えた。	(3)「将来の夢や目標を持っている」の項目の1・2学期のabの合計平均が A：85%以上の場合 B：70%以上の場合 C：60%以上の場合 D：60%未満	学習・生活アンケート(3)の1・2学期のabの合計平均が70%未満のとき、指導体系・方法を検討する。 生徒調査（1・2学期末）	B （75.8%）	B （78.2%）	数値としては2.4%向上した。2年生が進路学習を開始する際には、進路指導主事として2年生に向けて高校についての話をした。2年生は非常に意気に感じ，高校入試を意識した進路学習を行っていた。3年生では学校での高校説明会を行ったり面談を繰り返していく中で、将来の目標を明確にできるようになった生徒もいた。来年度は1，2年生にも進路だよりを提示し，将来を見据えたキャリア教育を行っていく。来年度の職場体験が中止になった際にはリモートでの体験ができないかを検討する。
④保健管理	基本的生活習慣を定着させる。特に歯や口の健康づくりや睡眠時間の改善を図る。	生徒保健委員会の活動で正しい生活習慣に関する知識を広めたり、母親委員会との協力で家庭との連携を考えていく。また、学校保健委員会等で家庭・地域と情報を共有し、基本的生活習慣の定着につなげる。	保健主事	むし歯の治療率は年々高まってきているが、春の検診で再びむし歯になっている生徒が多い。またTV・ゲーム・ネットなどで睡眠時間が少なく体の不調を訴える生徒がいる。	（成果指標） むし歯の治療率が向上したか。	歯科検診でむし歯があった生徒の治療率が A：90%以上の場合 B：80%以上の場合 C：70%以上の場合 D：70%未満の場合	治療率が80%未満のときは取り組み方を検討する。 むし歯治療済みカードの回収率		D （30.4%）	今年度は新型コロナの影響で、歯科健診が7月下旬、治療の通知が8月、夏休みも短かく、これらが治療率の低さに影響した。また、病院へ行くことに躊躇する家庭もあるのではないかと、強く治療勧告できなかったことも低さの原因と思われる。生徒保健委員会で生徒の意識を高める取り組みを考えたが、治療率を大きく変えられなかった。今後、学校歯科医とも連絡を取り合い、コロナ禍でも安心して治療を受けられるよう、また、担任・保護者と連携しながら治療率アップを目指していきたい。
⑤安全管理	防災時や救命救急など、緊急時の対応ができるようにする。	危機管理の校内研修を行い、安全管理意識の向上に努める。 養護教諭と連携し、アクションカードを用いた実践を行う。	教頭	危機管理マニュアル・防災マニュアル等はあるが、個人の担当部署や緊急時の対応の仕方が周知されていない。	（成果指標） 安全講習会や避難訓練、防災機器の研修会等を受け、災害時の行動マニュアルを理解したか。	26「職員が災害行動マニュアルを校内研修や避難訓練等で実践できたか」の項目のabの合計が A：85%以上の場合 B：70%以上の場合 C：60%以上の場合 D：60%未満	教職員アンケート26のabの合計が70%未満のとき、方法・内容について再検討する。 教職員調査（1・2学期末）	B （75.0%）	C （68.4%）	今年度は火災によるものと、休み時間中に地震が起こった時を想定しての避難訓練を行った。休み時間中の訓練は初めてであったが、生徒及び教職員がどのような手順で避難するのか確認することができた。危機管理は避難訓練だけではなく、熊対応や災害時の生徒の引き渡し等、様々な場面を想定し本校の災害行動マニュアルを校内研修等でしっかり確認していく。
⑥特別支援教育	校内委員会を月に一回程度開催し、情報交換や生徒理解に努め、個々に応じた効果的な支援について検討する。	校内委員会や研修会を通して、全教職員で共通理解を図る。学年会や生徒指導委員会、特別支援教育支援員、SC、専門相談員等と連携してより具体的に個々の支援の方法、内容、変容効果について検証し、実践していく。	特別支援コーディネーター	事例検討会や校内研修会を開催し、支援の方法を検討している。	（成果指標） 生徒は学校が楽しいと感じているか。	(18)「学校に行くのは楽しいと思う」の項目のabの割合の1・2学期の平均が A：90%以上の場合 B：85%以上の場合 C：80%以上の場合 D：80%以下の場合	C，Dのとき，原因を分析し，次年度の取組を検討する。	B （85.7%）	B （87.2%）	学年別に見ると、昨年度達成率の低かった現2年生の1・2学期平均が80%を割っているが、1年及び3年の数値が高かったためB判定となった。生活アンケートなどからネットワーク上のつながりを重視する傾向が強くなっていることが見られるので、現実の人間同士のつながりの良さを体感させていくことが必要であると思われる。
⑦組織運営・業務改善	全職員が学校運営参画意識を高め、分掌の平準化と多忙感・負担感の軽減に努める。働き方改革にむけ業務改善をさらに進める。	職員の縦と横の連携を適切に行い、職員一人一人の学校運営参画意識を向上させる。働き方改革の意識を高め、勤務時間と部活動時間の管理を適切に行い、超勤削減とワークライフバランスの実現を図る。	教頭 各主任	働き方改革を意識しながら業務を行っているが、思ったほどの超過勤務時間の削減に至っていない。	（成果指標） 勤務時間を意識し、働き方改革が行えているか。	職員の超過勤務時間の平均が80時間以下の人数が A：80%以上の場合 B：70%以上の場合 C：60%以上の場合 D：60%未満の場合	C，Dのとき，原因を分析し，次年度の校務分掌や業務内容を検討する。	B （76.3%）	C （68.3%）	コロナ禍で学校休業中の80時間以上の超過勤務者はいなかったが、授業が始まった途端80時間超えは45%に上り時間外平均は81.1時間となった。しかし10月末より最終退校時間を設定してからは、平日は時間を意識した取組が見られ80時間超えは20%まで減り、超勤平均時間も63.5時間まで減少できている。今後は業務をチームでこなせるような体制作りを目指していきたい。 また今後の判断基準は、人数でなく一ヶ月の平均超過勤務時間にする方が望ましいと考える。
⑧研修	思考力・判断力・表現力を育て、学力の向上を目指す。	思考力・判断力・表現力の育成及び学力の向上を図るために、各教科・領域・学年で工夫している内容を提案授業、研究授業、互見授業から学び合い、授業改善につなげる。若プロにも授業改善を目的とした研修を積極的に行っていく。	研究主任	教科の枠を越えた授業研究、互見授業を実施している。	（成果指標） 思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりができたか。	生活学習状況調査アンケート(20)「授業中、自分の考えを表現している」と答えた生徒（abの割合）が A：75%以上の場合 B：70%以上の場合 C：65%以上の場合 D：60%未満	C，Dのとき，原因を分析し，次年度の研修内容を検討する。	B （71.7%）	B （70.2%）	コロナ禍で話し合い活動が満足にできず、生徒が自分の考えを伝え合い深め合う場面が少なくなったことが、結果に影響していると考えられる。一方で、話し合いの場面を設けても、伝え方が分からない生徒が少なからずおり、単語ではなく、自分の思いを文にして伝え合う力を身につけさせていく必要がある。各教科で身につけさせたい見方・考え方をふまえ、授業のポイントを明確にしながら、授業の中に自分の思いを「伝える」活動を取り入れていきたい。
⑨保護者，地域との連携	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からのお便りが確実に保護者に渡るように呼び掛けていく。	情報担当 教頭	HPだけでなく、メール配信で学校の状況を伝えていく。HPやメール配信等の内容の充実を図っていく。	（成果指標） 担当者を中心に、充実したホームページの更新ができていたか。また、メール配信が適宜・適切に行われていたか。	①「学校たよりやホームページ等で、学校の様子がわかる」の項目の1・2学期のabの合計平均が A：90%以上の場合 B：80%以上の場合 C：70%以上の場合 D：70%未満	保護者アンケート①の1・2学期のabの合計平均が80%未満のとき、方法・内容について再検討する。 保護者アンケート（1・2学期末）	C （79.1%）	B （88.3%）	今年度はHP画面を刷新し、行事や学校便り・学年だより等の更新をこまめに行ってきた。また保護者へのお知らせやアンケートの回答などはメール配信を積極的に活用した結果、保護者からの評価が10%近く高くなった。来年度はメール配信の登録者数を増やし、配信内容を工夫し、さらに活用していきたい。
		授業参観に限らず、必要に応じて保護者との懇談の機会を持ち、生徒・保護者への親身な対応を行う。また、校区の小学校や保護者を巻き込み、地域全体で学校の課題解決を目指していく。	教頭	保護者との連絡を密にして早期にかつ親身な対応を図る。また、小中連携を行い、連携を深めていく。	（成果指標） 個人懇談や保護者懇談を適切に実施し、家庭との連携を充実したものにできたか。	「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。」の項目の1・2学期のabの合計平均が A：70%以上の場合 B：60%以上の場合 C：50%以上の場合 D：50%未満	保護者アンケート②の1・2学期のabの合計平均が60%未満のとき、方法・内容について再検討する。 （1・2学期末）	A （79.6%）	A （89.1%）	コロナ禍の影響で、今年計画していた授業参観や学年行事が全て中止となったため、保護者が直接学校に来て様子を見る機会がなかった。保護者への連絡は、学校だよりや学年だより、メール配信等で情報を得るのみであったが、結果的には保護者評価が90%近くまで上がったので、今後も続けていきたい。また小学校との連携については、できる範囲で工夫しながら深めていきたい。
⑩教育環境整備	安全点検を行い、施設設備等の不備を早期発見し修理・修繕していく。	掲示担当者を明確にし、適切な掲示計画をもとに各学級・廊下の掲示物の充実を図る。安全点検により改善状況を適切に把握し、市とも協議した上で早急な対応を実施する。職員で修理可能なところは随時修理していく。	教頭 各担当	定期的に安全点検を実施し、修理等が必要な個所は早急に直し、自校での修理が難しいものは市教委にお願いしている。	（努力指標） 安全点検等を確実に行い、施設設備の状況を把握し、不備があれば自分たちで修理していく。	28「施設設備の点検・整備・修繕を行った。（修理の仕方を学んだ）」の項目のabの合計が A：95%以上の場合 B：90%以上の場合 C：80%以上の場合 D：80%未満	教職員アンケート28のabの合計が90%未満のとき、方法・内容について再検討する。 教職員調査・毎月の安全点検調査	C （85.0%）	B （94.1%）	校舎が古いこともあり、いろんな箇所の不具合が見られる。中でも、廊下や体育館等の雨漏りが目立ち市教委にも修理をお願いしているが、修繕には至っていない。その他の点で修理できる所は速やかに修繕している。今後も安全点検を定期的に行い、相互に情報を共有し、修理の仕方を学ぶような研修を取り入れていきたい。

学校関係者評価	